

## シャコガイの放流指導（多良間村）

宮古支庁農林水産課

### 1. 放流種類

ヒメジャコ 水産試験場八重山支場で種苗生産  
サイズは8mm~10mm

### 2. 放流場所

多良間村 普天間港西側地先、高穴地先

### 3. 放流個数

2,000 個

### 4. 放流月日

平成6年5月11日

平成6年5月12日

### 5. 参加者

多良間村役場経済課 渡口時光、運天宏和  
漁業者 伊良皆正勝、野原憲一、本永清一、  
清村隆男  
宮古支庁農林水産課 長嶺 巖、鳩間用一

### 6. 放流経過

5月11日村役場経済課の渡口さんが水産試験場八重山支場からヒメジャコの稚貝を2,000個を空輸、その日から放流を始めた。放流場所は高穴地先で、放流のポイントとなる岩が小さく、一つの岩に放流できる貝の数が少ないため、場所を移動しながら作業は6人で行った。

稚貝の保護に用いるネットを切る作業は放流場所に向かう船上で行ったが、船がゆれて切りにくかった。ネットは最初5×3cmを用いたが、小さいという漁業者の意見でネットは約18×10cm程度に切って使った。

1日目は、午後3:30から5:00まで作業を行い、約400個放流した。

残った稚貝は、金物のざるにいれ発泡スチロー

ルの浮きを付け海に浮かべ、船につないでおいた。

2日目は、普天間港西側地先で行った。ここでは基質となる柔らかい塊状ハマサンゴが多く確認され、放流作業はスムーズに進行した。

午前9:30から作業を始め午後3:00まで約1,600個放流した。

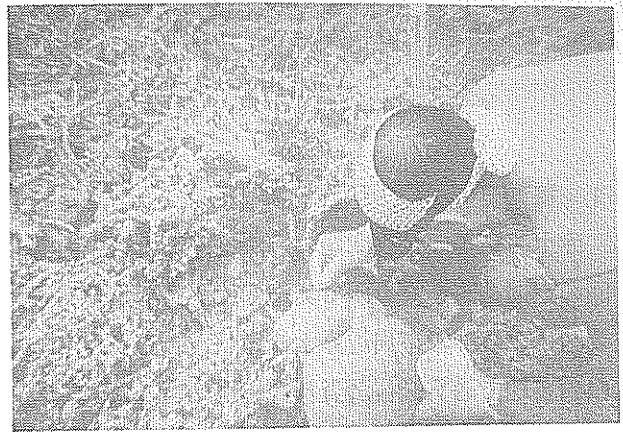
今回の放流は、コンプレッサーの関係でレギュレーターが1つしかなく、調子は素潜りでの作業になったため、埋め込みに作業に時間がかかりすぎた。

### 7. 問題点と今後の課題

- 今回は多良間村で初めての放流を行った。事前調査を実施していなかったため、放流基質の岩（ハマサンゴ）を探すのに苦労した。
- 放流に用いたネットは約20日経過後に取り外す作業を行うよう指導すると同時に、ネットに付着しているゴミの状況、海藻の育成状況の確認をする必要がある。
- 1つのコンプレッサーからエアードリル1個、レギュレーター3個はとれるが多良間ではレギュレーターが1つしかなかった。今後は全員が同時に潜水できるようにエアースの改良を行う必要がある。
- 多良間村では漁協の支部がなく、漁場管理（資源管理を含む）の勉強会の機会が与えられていないため、漁場を管理するという意識が弱い。漁協とタイアップして勉強会を実施する必要がある。
- 今回は、多良間村にとって初めてのシャコガイ放流事業で、若い漁業者が中心となって意欲的に実施したことは、今後多良間村で資源管理型漁業を推進していく基盤づくりができたと考えられる。



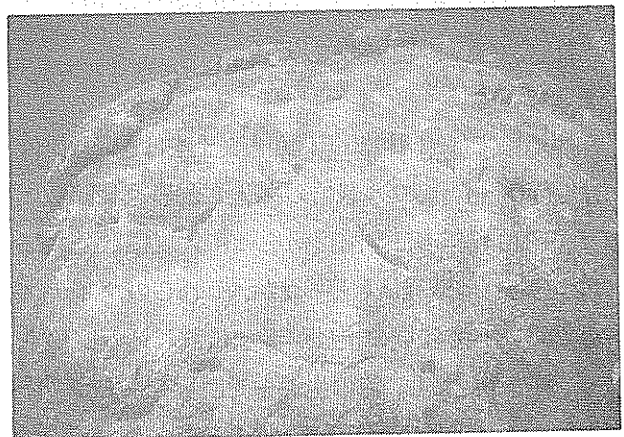
Photograph of the field where the experiment was conducted.



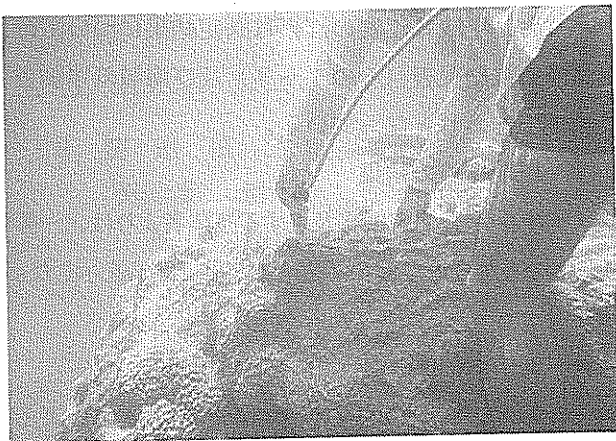
Photograph of the person conducting the experiment.



Photograph of the person measuring the field.



Photograph of the large object used in the experiment.



Photograph of the person measuring the field.



Photograph of the group of people sitting on the ground.